

日英漢の敬語表現比較

趙 宏 凌*・山 崎 淑 子**

Polite Ways of Speaking in the Three Languages of Japanese, English and Chinese

Zhao Hongling and Yoshiko Yamazaki

ABSTRACT: Polite ways of speaking do exist in all human languages, and they are of vital importance particularly to the language communication between people in the highly civilized societies. This article focuses on the comparison of the polite languages, i.e., the common features and the different aspects of polite ways of speaking in communication, between the three languages of Japanese, English and Chinese, in an attempt to draw the attention of learners, researchers and people who are concerned with the learning, teaching, researching and applying of the three languages.

はじめに

人類社会に現有の千を越える言語の中に、敬語は広く存在しています。人々は言語で交際を行う時には各々の条件と要素に制約され、違った言葉を選ばなければなりません。言葉のいかにかは往々交際の成功かどうか直接に係わってくると考えています。本章は我々は日常生活にありふれた日・英・漢の敬語の表現について比較して、その一致点と差異点を巡って論述してみたいと思います。これらの敬語の比較を通し、我々の今後の言語研究、交流及び言語教育、国際交流において少しでも役立てば幸いだと思ひます。

敬語について

敬語と言ひますと、相手に対する言葉の中の丁寧、遠慮、婉曲な表現形式と通常定義されています。敬語は人々の会話の中に広く使われていて、客観的な存在となっております。日本語だけでなく、英語、中国語のなかにもそれに相当する敬語が存在しています。人々は言語で交際を行うとき、往々 交際の場所、時間、正式、非正式；交際の手段、及び交際の対象、例えば身分、地位、年齢、職業、性別、自分との関係の親疎度合などのそれぞれの状況に合わせて適切な言葉を選んで、自然に話を交わします。本文の重点である日・英・漢の会話の敬語の例から見ますと、二つの特徴があります。その一：敬語自身で、即ち、敬語の音声表現形式です。中に敬語語彙、敬語文法と敬語慣用表現さらに敬語呼称などの類があります。中に、日本語の敬語は完備なる敬語体系があり、尊敬語、丁寧語、謙遜語が分けられています。その表現形式

* 教養部 ** 事務局

は「お・・・する」、「お・・・になる」、「お・・・申す」、「ご・・・なさる」など文法的な敬語が多く見られている一方、英語の敬語には疑問式の形で表現する方法が多く使われて、イントネーションなど語気詞を運用し、丁寧さを表す傾向があるように見えます。「Can you・・・?」、「May I・・・?」、「Could you・・・?」、「Would you・・・?」などでがよく使われています。しかし、中国語の中の敬語の表現は主に語彙的な敬語表現を使うのが殆どで、「您」、「请」、「位」、「谢谢」、「对不起」、「麻烦您」などが挙げられます。敬語表現のその二は、言語以外の敬語表現で、即ち行動的な表現方法です。いわゆる私達がよく言っているボディランゲージ (body language) で、身振り素ぶりの敬語です。例えば：日本ではお辞儀、会釈、微笑みがよく見られますが； 西洋では抱擁、ほっぺたの接吻、微笑みなどが有り；中国では、大体は握手の表現が多いのです。比べますと、日本は一番礼儀正しいです。日本は「礼儀の国」と言われています、ボディランゲージは多く使われています。道理で、多くの初めて日本に訪れた人は日本に対する印象を聞かれた時、「日本人は本当にたいへん礼儀正しく、感心しますね」と口を揃えて言います。英語と中国語の中にも日本語に類似する、相応する敬語の言葉が存在しています。但し、文化背景、社会体制が違いますので、表現方法が多かれ少なかれ違う所が窺われます。

日英漢の敬語表現について

一致点：日本語を勉強する際、敬語は常に難点としてよく討論され、話題となります。敬語の使い方に関する本、研究著書もこれまでたくさんありますが、英語と中国語の中には敬語を話題とする研究著書はまだ少ないようです。ここで、中国語、英語のなかの日本語と同じ丁寧丁寧な表現を比較してみたいと思います。まず、日常会話にある日本語の敬語表現と英、中の敬語の一致する、或は、類似する所を取りあげてみたいと思います。

次の例を見てみましょう：

1. (教室で、先生が学生に対し)

日 みなさん、静かにしてください！

英 Will everybody please be quiet!

中 请 大 家 安 静！

下線の引いている所はいずれも敬語の表現で、表現場所が違っていても、いずれは相手に対し、お願いする時、命令する時、使う丁寧な表現です。

2. (デパートで、店員はお客さんに)

日 いらっしゃいませ！

英 Good morning. Can I help you?

中 欢 迎 光 临！

「いらっしゃいませ」は、日本人にしてみれば、どうということもなく、当然のように聞こえますが、初めて日本に来た外国人にとってはこれを聞きますと、非常に暖かく親切に感じます。これと同じく、英語の「Can I help you?」は字面の「なにかお手伝いしましょうか」と理解せず、日本語の「いらっしゃいませ」と同じ語感で理解していただきたいです。中国語の「欢迎光临」もこの意味で、店員がお客さんを迎える時に使う挨拶用語です。いずれも丁寧、丁寧な役を果たしています。

次の例文を見てみましょう：

3. (道端で知らない人に道を尋ねる時)

日 すみません、お尋ねしますが・・・

英 Excuse me! Could you tell me・・・

中 对不起，请问・・・・・・

ここで、日本語の場合は主体は話手の「私」で、謙讓語の「お・・・する」の形で登場し、相手を尊重して敬意を払う言い方です。英語の中では「Could you・・・」の表現で相手を前提にして、主人公は「あなた」のほうです。ここの「could」は「can」の過去形を使っていますが、過去の意味は一切ないのです。英語の中の敬語の特有な慣用表現です。言い換えますと、英語では礼儀、婉曲な提言、要求、希望を表す時に、「can」、「will」などの助動詞の過去形「would」「could」を使い、しかも、疑問の方式で表現する傾向があります。中国語では、「请问・・・」など「请」という語彙を使って、丁寧さを表します。文法構造、表現形式がそれぞれ違っていても、敬意を表す面はみんな一緒なのです。

次の例文を見てみましょう：

4. 日 ドアを開けていただけますか。

英 Would you open the window, please?

中 请 把 门 打 开。

5. 日 タバコをやめたほうがいいです。

英 You'd better give up smoking.

中 你最好 把烟戒掉。

6. 日 ご意見をお聞かせ願いたいです。

英 I'd like to know your opinion about it.

中 我想听听 您 的意见。

以上の例文は、例4は丁寧な願いで；例5は自分の希望、勧誘を述べる丁寧な表現です。

例6は相手の意見を訊ねる時のへりくだった表現です。中、英、日はいずれも敬意をこめた表現です。

もう一つに、話し相手になにかを尋ねるときには、だれかに声を掛ける時には、中国語は、人によってちがった称呼敬語を使います。日本語の「あのう、すみませんが」「ちょっと おたずねしますが」と同じく；英語の「Excuse me」に相当する表現です。

次の例文を見てみましょう：

- | | | |
|------|-----------------------------------|------------|
| 7. 日 | あのう、ちょっと おたずねしますが・・・ | (性別関係ない) |
| 英 | Excuse me . Could you tell me・・・? | (性別関係ない) |
| 中 | 小姐, 请问・・・・・・ | (若い女性) |
| 8. 日 | すみません、ちょっと おたずねしますが・・・ | (やや丁重) |
| 英 | Excuse me. Could you tell me・・・? | (やや丁重) |
| 中 | 先生, 请问・・・・・・ | (身分の高そうな人) |
| 9. 日 | すみませんが、おたずねしますが・・・ | |
| 英 | Excuse me. Could you tell me・・・? | |
| 中 | 同志, 请问・・・・・・ | (判断しにくい時) |

9番の判断しにくいというのは、「同志」は、中国では男女問わずに、人に声を掛ける時に使われます。中国語では「小姐」を使ったらいいか、それとも「先生」を使ったらいいですかと判断しにくい時は、「同志」を使うと無難です。とくに、中国人に声を掛ける時には、これを使うと親しみを感じます。これは外国人には向かないのです。7番の「小姐」は字面では「お嬢さん」の意で若い女性に対する称呼で；「先生」は、先生、年配者、或は身分の高そうな人に対して使います。さらに9番の「同志」は社会主義国の特有の呼び掛けで、「志同道合」ということで、「志が同じ」の意味です。但し、これはあくまでも呼び掛けだけで、字面にこだわることはないのです。社会背景、文化、様態が違うことによって、言葉は大きな相違があるのも無理はないでしょう。以上の例を比べてみますと、日本語の敬語は中国語の敬語と形態が似通っている点があります。すなわち、どちらも、語彙、語法で、敬いの対象に敬意、親しみを表します。但し、中国語は親疎を尺度とするものが多いのに対し、日本語は上下関係を尺度とするものが多いのです。これに对照して見ますと、ヨーロッパ圏の英語の敬語表現は、婉曲で、柔和な表現をよく使い、自分の品位を高め、他人との円滑を計る傾向があるのではないかという気がいたします。

相違点：

英語と中国語と比べて、日本語の敬語はその表現に明らかに性別の差異があります。即ち、

男性用語と女性用語です。男尊女卑の日本社会では、言葉にも現れています。女性は大概一步を譲って発言することが多いのですし；丁寧語の「お」「ご」、語尾の「ね」、「よ」も女性の言葉にたくさん聞かれます。女性のこういう言葉をしていると、非常に気持ちよく、美しく響きます。これに対し、男性の言葉は正式で、かた苦しいところをたくさん感じます。特に、聞いた所では、家では、自分の奥さんを「おまえ」と称しますが、男性から見ると当然のようですが；ちょっと耳に応えるような感じの言葉です。日本では第一人称代名詞の「私」から見てもみましょう。男性は「おれ、おいら、ぼく」などを多用しますが、女性は「あたし」「わたくし」を多用します。男性は正式の時も「わたくし」と言います。また男性は「どうぞもっと食べてください」と「～てください」というやや普通の敬語を使用しますが、女性の場合は「どうぞもっと召し上がってください」と非常に丁寧な敬語動詞を使用します。日本語では男性の言葉は肯定、命令、判断の語気が多いようである一方、女性の言葉は婉曲、曖昧、丁寧な表現が多いのです。失礼のないように配慮しているのです。しかし、英語の場合は男女いづれも、「I」しか用いません；中国語の場合も「我」としか言わないのですので、男女の言葉の使い分けは見当たらないのです。

次の例文を見てみましょう：

- | | | |
|------|------------------------|--------|
| 8. 日 | <u>わたくし</u> は 学生です。 | (女性) |
| | <u>ぼく</u> は 学生だ。 | (男性) |
| 英 | <u>I</u> am a student. | (男女兼用) |
| 中 | <u>我</u> 是 学 生。 | (男女兼用) |
| 9. 日 | <u>お時間</u> でございます。 | (女性) |
| | <u>もう時間</u> です。 | (男性) |
| 英 | It's time. | (男女兼用) |
| 中 | 到 时 间 了。 | (男女兼用) |

日本語では別れる時は、次のいくつかの表現があります。

じゃ、またね。

バイバイ。

それじゃ、さようなら。

では、失礼します。

それでは、失礼させていただきます。

など漸次ことばが敬語の方へと表現しますが、英語にはこれに相当する表現もいくつか挙げられるでしょう。

Bye!

See you!

So long!

Good bye!

Farewell!

中国語では相応して：

回头见。

拜拜！

再见！

告辞了！

那么，我告辞了！

けれども、中英には敬語の度合いはだんだん変わってくることはそんなに明らかではないのです。

もう一つ、異なる点に気が付きますが、中国語と英語では第一、第二人称代名詞を積極的に使用し、敬意を表す傾向があります。なのに、日本語はこれ（主語）を避けて言う場合が多いのです。

次の例を見てみましょう：

10. 日 お目にかかれてたいへん嬉しいです。

英 I am very glad to meet you.

中 我很高兴见到你。

11. 日 ご到着をお待ちいたしております。

英 We will be looking forward to seeing you.

中 我们等待着您的到来。

もう一つの例を見てみましょう：

12. 日 こちらは うちの社長の劉さんです。

英 This is Mr Liu, Manager of our company.

中 这位是 我们公司的刘经理。

13. 日 これ、箱根のお土産です。

英 Here's a present from Hakone for you.

中 这是给你的箱根的礼物。

14. 日 北海道のどこへ行ったの。

英 What part of Hokkaido did you visit?

中 你去了北海道什么地方？

以上の例文は英文と中国語ではいずれもわたくし、あなたを省略するものではないのです。逆に日本語の中にはわたくし、あなたを付けると蛇足の感がいたします。

以上から見ますと、日、英、中の中に、それぞれちがった敬語の表現方法があります。総じてみれば、日本語の敬語は比較的に複雑で、自らの体系があります。多大な努力を払って、勉強しないと、中々、身に付けられるものではないと思います。

おわりに

敬語は人類の文明と、発展の結晶で、社会の絶えない進歩の産物です。敬語は言語の中の精髓です。日本では本屋には“敬語の使い方”などの本が多数並んでいます。サービス業界では例えば：デパート、銀行、レストランなどの分野で使われているいわゆる「規範敬語」があるほかに、人間関係をうまく処理するための交友敬語、さらに、上下関係を分別するための「職業敬語」があるようです。また、女性に使われる「美化敬語」というのが挙げられますが、言葉づかい、親疎分明の敬語です。中国語には、「您」、「请」、「谢谢」、「你好」、「对不起」、「位」、「再见」などの具体的な言葉以外に社会態勢の制約で、謙恭、上下、など社会に適合しないとされているものはもう殆ど使わなくなりました。そして、英語の場合は、なるべく疑問形とはっきりした人称代名詞の形で、相手の要望、意見、自分の希望を婉曲に提出し、相手に圧力を感じさせないように配慮しています。よく使われているのは「Could you」、「Can you」、「How about」など唐突を避ける言い方が多いのです。

家庭では、文明、礼儀を子供に教えること；社会では、精神文明、礼儀正しく接待することなどは世界の共同かつ長期的な任務と言えるでしょう。敬語の言葉につきましては言葉自身の勉強はむろん重要ですが、その前提として、社会背景、様態の相違をわきまえることを忘れないで、人に対する気持ちを込めた言語の勉強が必要になってくるのではないかと思います。

参考文献：

1. 「中日交流標準日本語」 人民教育出版社 1992年4月版
2. 「学日語」 中国放送テレビ出版社 1992年4月版
3. 「現代日本語語法」 益剛隆士 田窪行則 合著
上海外国語教育出版社 1996年9月版
梁伝宝 訳
4. 「現代敬語読本」 奥山益朗
5. 「日語語法疑難辯析」 上海外语教育出版社 1995年10月版
赵 福 泉

(平成9年12月2日受理)